

【臨床指標 5】脳梗塞の ICD-10 別患者数

～解説～

脳梗塞の病型別の患者さんについて、国際基準（ICD-10）に合わせて患者数、平均在院日数、平均年齢、転院率を集計したものです。脳血管がつまっておこる病気も死亡原因の上位に位置する病気で血管のつまり具合やつまる部位により分類されていますが、脳の血管がつまって、血液がほとんど流れなくなる脳梗塞の場合、早期に治療を行うことが効果的とされています。救急で夜間等に搬送される患者さんも多く、受け入れには救急体制の確保が必要となります。

そこで、当院で最も利用割合の高い下表の「脳梗塞」の患者さんで救急車を利用した割合を調べてみますと、約5割の人が救急車で搬送されたことが分かりました。また、約4割の患者さんが転院をしており、近隣の医療機関と連携した治療が行われていることが分かります。

平成 26 年度 脳梗塞の ICD-10 者数

ICD-10	傷病名	発症日から	症例数 (件)	平均在 院日数 (日)	平均年齢 (歳)	転院率 (%)
G45 \$	一過性脳虚血発作および関連 症候群	3 日以内	27	6.5	73.0	7.4
I63 \$	脳梗塞	3 日以内	296	23.5	76.1	41.2
		その他	32	25.1	74.2	37.5
I65 \$	脳実質外動脈の閉塞および狭 窄、脳梗塞に至らなかったもの	3 日以内	5	42.6	64.2	60.0
		その他	23	7.2	70.8	4.4
I66 \$	脳動脈の閉塞および狭窄、脳梗 塞に至らなかったもの	3 日以内	7	17.7	67.4	57.1
		その他	3	9.0	58.7	0.0